

* 謄写版の原紙を収蔵

謄写版といってもお分かりにならない御仁が多いことと思う。筆者の年代で一番思い浮かぶのは小学校、中学校、高校の試験の時に配られるプリントというものである。担任の先生がクラス全員に同じ印刷物を配布する際、先生方はこの謄写版でプリントを用意した。筆者が1961年に岡山天体物理観測所に就職し、しばらくして岡山天体物理観測所の親睦団体としてクラブのような組織を立ち上げ、機関誌として「コスモス」というのを発行した。それは謄写版で刷っていた。謄写版は蝋を塗布したトレーシングペーパーのような原紙をやすり板の上で鉄筆というもので文字のところの蝋を剥してインクが通るように用意する。次にインクが通る網目の布地を張った枠の下にこの原紙を張り、網目の布地の上をインクの付いたローラーを回転させて、原紙の下のおかれた用紙に印刷するのである。

この蝋引き原紙を使ってローラーでインクを通過させて印刷する機械を謄写版と言った。1995年に国立天文台で歴史的に貴重なものとして残すものの候補が募られた際、この謄写版が候補にあったが無視されたのであろう。どこにも見当たらない。この3月で定年退職するM女史がその原紙の新しいものを数十枚持っていて、アーカイブスの仲間に入れてはどうかと譲ってくれた。写真1がその原紙である。

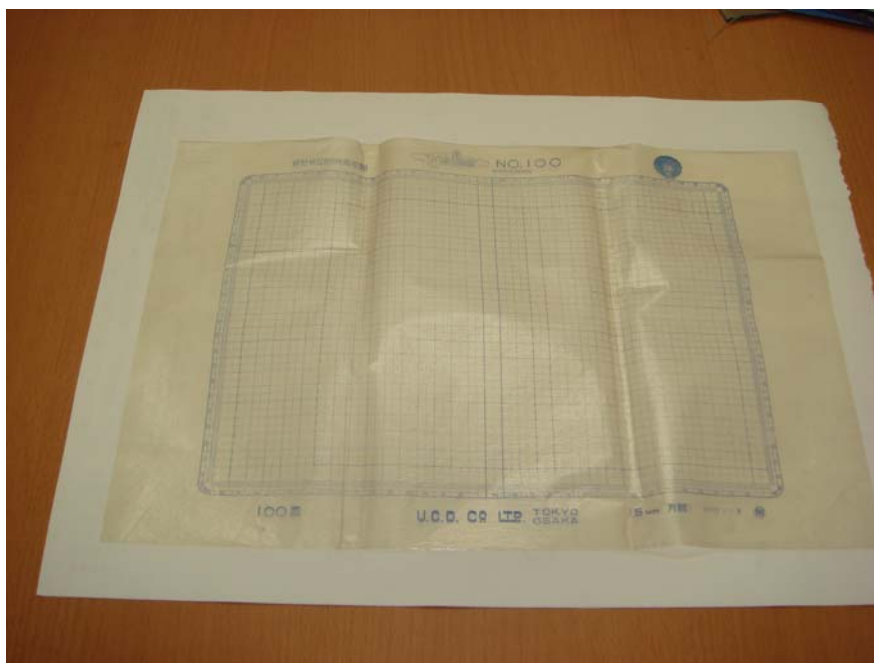


写真1 謄写版の原紙

謄写版の原紙だけあってもどうにもならない。そもそもの印刷機である謄写版が必要だし、原紙を鉄筆で切るやすりが無ければどうしようもない。

1966年に三鷹に転勤し、すぐに組合の委員などをして組合員に配る「組合ニュース」はこういった謄写版刷りの印刷物であったが、この印刷は外注していた。その頃世の中には原稿をもらって原紙を切って、印刷する業者がいたのである。しばらくして印刷物を自前で印刷するようになった。その頃は鉛筆書きの原稿を読み取り、蠟引き原紙の文字のところを焼き切る機械が出現し、その原紙を巻いて電動の輪転機で印刷できるようになった。

それから、しばらくして世の中にゼロックスコピーという便利な機械が出現して、謄写版はいつの間にか姿を消してしまった。写真2が入っていた箱、写真3が箱に入っている原子の種類を書いたカタログのようなものである。

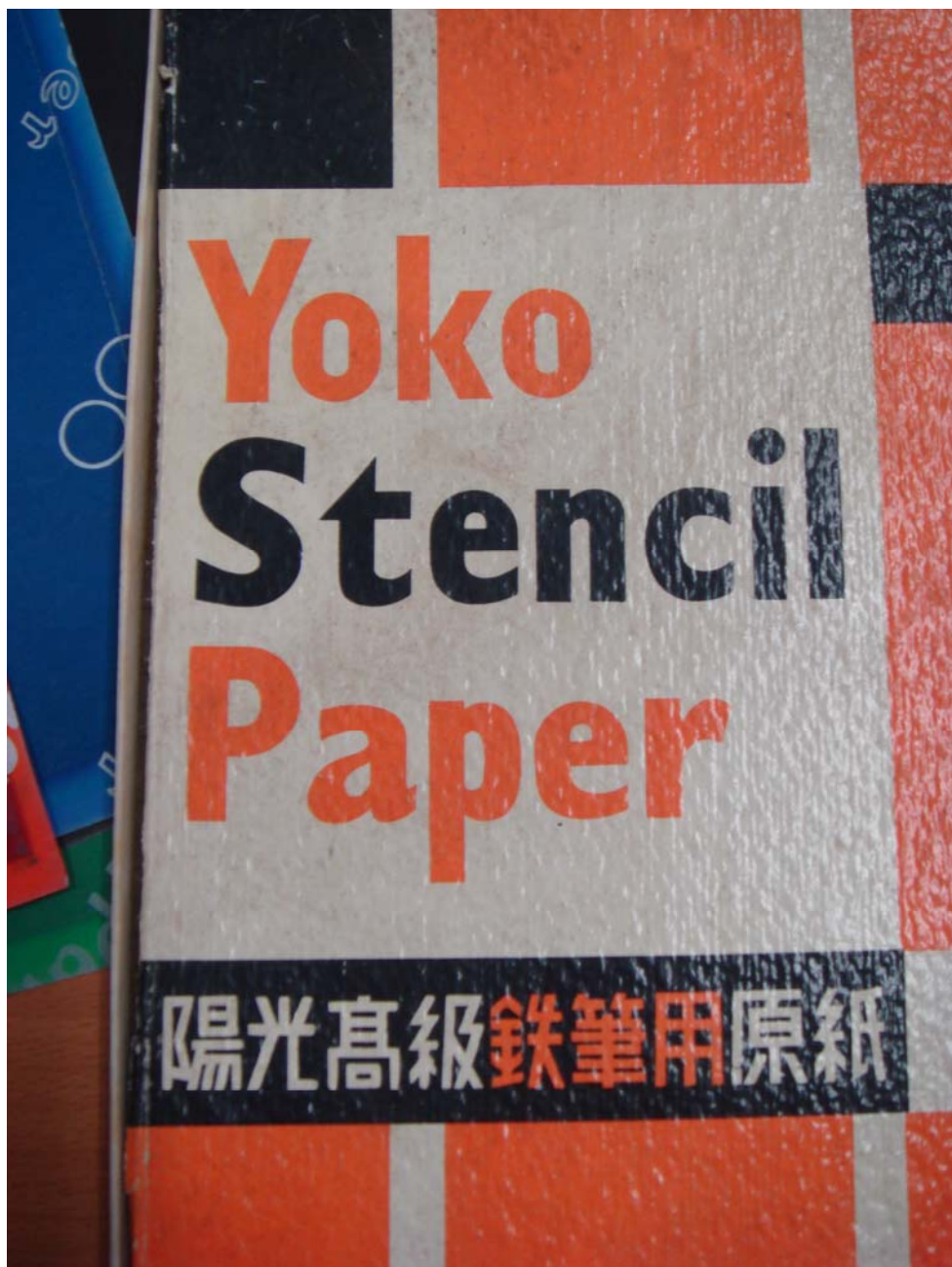


写真2 原紙の箱

陽光 印 トーホー 印
 謄写版原紙罫線種類



五	耗	方	眼	Aプリント縦書(中字)	
四	耗	方	眼	Aプリント横書(中字)	
三	耗	方	眼	Bプリント縦書(細字)	
二	耗	方	眼	Bプリント横書(細字)	
一	分	五厘	方	Cプリント縦書	
一	分	方	眼	Cプリント横書	
輪転機用(五・四・三・耗)				Cプリント理想罫	
二	分	原	稿	プリント縦書(極細字)	
一	分	五厘	原	稿	プリント横書(極細字)
一	分	原	稿	雑誌	罫
五	耗	原	稿	豫算	罫
四	耗	原	稿	追加更正	罫
新聞判用(五耗)				決算罫	才入・才出
無				音譜	罫

◀ 組合せ地図 ▶

世	界	地	図
日	本	地	図
北	海	道	方
奥	羽	地	方
関	東	地	方
中	部	地	方
近	畿	地	方
中	四	地	方
九	国	地	方
五	州	地	方
	線		罫

100枚1組



五	耗	方	眼
四	耗	方	眼
三	耗	方	眼

写真3 いろいろな企画の原紙があることを示す内側の紙

こういった事務機に相当するもののアーカイブは天文台アーカイブ室の仕事ではないか
 もしれないがご容赦いただきたい。